

KAS

風の谷

びゅう  
V I E

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



# 同行二人



歩いて つくって 休んで  
そしてまた歩いて  
こころを添わせて  
また出發します



## 【2008年 冬号】

巻頭文 P 2

特集：一泊旅行特集 P 4・P 5

自閉症について P 7

研修報告 自閉症支援センター P 3

一泊旅行の作り方 P 6

後援会のページ P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町6 14

毎月15日発行

購読料1部 50円

# 相模原おやじの飲み会

7月、第20回日本自閉症協会全国大会が熊本で行われました。今年の大会は「啓発と支援」というメインテーマで行われ、その開催目的の一つに「兄弟。家族への支援と援助体制の確立」というテーマでした。当事者と兄弟との付き合いは、両親よりも永く人生を共にし、また豊かな人生を送る手助けに重要な役割を担っていること、そしてその重要な支援者である兄弟の待遇は、さてどうなのか？また父親、祖父母の当事者への理解、役割について触れていました。さてその父親についてですが、なかなか表面にでてきません。各地親の会においても、活動の中心は母親のように思えますし、この神奈川県域11地区を見ても、同じことが言えます。だからといって、父親は何も考えていないのかと言うと、そうではなく、父親なりの見方で子どもを観察し、子どものことを心配し、情報を集めていると思います。その現れが分かりませんが、このところ各地でおやじの会の存在を耳にするようになりました。おやじの会といえば、愛知県の「つばみの会父親部」が知られています。今回の自閉症全国大会で、一部有志の方々が全国おやじの会を立ち上げ、神奈川県自閉症児・者親の会にも参加の依頼がありました。まだ県域各地区のおやじの会活動には、ばらつきがありますが、私としては是非参加をしたいと考えています。

相模原市自閉症児・者親の会では、箕先生の自閉症講座のワークショップの話し合いの中から、「今度飲みながら自閉症について語り合おう」というのがきっかけで、平成16年8月相模原おやじの飲み会がスタートしました。2ヶ月に一回、飲み代は割り勘、定期的に関われ、今年の10月で23回目を数えました。父親、支援者、先生等、集まる人たちは色々であり、それに父親は仕事と家庭と二つの顔を持っているので、それぞれの立場で話す内容は、私にとって、新鮮であり、その話の中に、沢山の手掛かりがあります。そして誰もが彼らを何とかしてあげたい、と想う気持ちを深く感じます。さて活動の成果ですが、一部の親の会ではおやじの会に成果を期待していることを聞きます。ですが相模原おやじの飲み会主催での行事を行ったことはありません。ただの飲んだくれの集まりと映るかも知れません。しかし父親が障害に関心を持つこと、そして前向きに取り組むことによって、子どもとの関係、夫婦の関係、兄弟間の理解が深まっていくものと確信しています。この会の特徴は前に触れたように立場の違う方々が参加してくれます。とてもありがたいと思います。「酒に十徳あり」という教えがあり、その中に「推参に便あり」「万人和合す」があります。どうですか、ちょっと寄って話して行きませんか。



神奈川県自閉症児者親の会 会長 柳場 秀雄

## 「相模原自閉症支援センター便り」

### ～「自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」に参加して～

私が福祉の世界に飛び込んだのは約10年前、それまで福祉といえば高齢者介護とっていて、自閉症はおろか、知的障害についてもよく知りませんでした。そんな時、縁がありやまびこ工房でお世話になることになったのですが、その時でさえ自閉症について、ほとんど知らないという状態でした。その後、職場の先輩方や施設内での勉強会等を通じて自閉症理解を深めてきました。そんな10年間で、TEACCHプログラムの存在を知り、篁一誠先生と出会い、その他様々な人との出会いの中で私の中での自閉症像もなんとなくですが出来てきていました。しかし、法人内で相模原自閉症支援センターの担当になり、新規職員への内部研修や外部からの相談を受けるようになってくると、自分の考えに自信が持てなくなることもあり、確固とした後ろ盾がほしくなりました。そんな状況を打破するにはこれしかないと思い、このセミナーに申し込んだのでした。

トレーニングセミナーは8/2～6までの5日間で上大岡駅近くのウィリング横浜で行なわれました。初日は講義中心で、今まで自分で勉強してきたこととのリンク度も高く、ある意味余裕のある一日でした。しかし、二日目からが思っていた以上のハードさでした。「自立課題」「コミュニケーション」「家庭生活スキル」「余暇」の順番で実習が進んでいくと、毎日が怒涛のごとく過ぎて行きました。毎日同じように、午前中の評価から始まり、評価 課題設定 実施 再評価(再構造化)の順に進んでいきます。けれど、当たり前のように毎日違うことが起こります。簡単に上手く行くわけがないとわかってはいても、考えたことと、実際に支援した事とのギャップを感じ、上手く行かないことに対して恥ずかしく感じ、他のチームが上手く行くことを羨ましく感じ、自分に対してネガティブな感情が浮かんでくることも多かったです。しかし、一番苦しんでいるのは、わからない中で必死にがんばっている本人たちで、支援者の無理解がその苦しみを増している要因だと立ち返れたときに肩の力が抜けるような気持ちになりました。脳の中で起こっている事を、自閉症の視点で考えること、更に個性ある脳に対して一人ひとりに合わせたプログラムを考え、構築し常に修正していくと、それが「評価 課題設定 実施 再評価(再構造化)」なのだということに行き着くことができました。これは、卓上ではなかなか理解できなかったことで、このトレーニングセミナーをつうじてようやく理解できたのだと思います。ただ、残念なのは私がこの境地にたどり着けたときには、すでにセミナーも終わりを迎えようとしていたときでした。

このセミナーの良さを実感するのは研修中よりも、その後の現場だということだと思います。自分だけでなく、周りの支援者にも実感してもらえるように、しっかりと現場で活かして行きたいと思います。最後になりましたが、このようにすばらしいセミナーを継続して実施してこられた親の会の皆さんと、協力児者として参加してこられたご本人たちに感謝すると共に、ぜひ今後も継続していただけたらと思います。本当にありがとうございました。

相模原自閉症支援センター 西村三郎

### 「第22回 全国自閉症者施設協議会 神奈川大会」報告

11月13、14日に横浜のホテルキャメロットジャパンで開催されました。今開催は神奈川大会と言うこともあり、自閉症施設協議会に加盟する、私たち「風の谷」を含む県内9施設が開催担当施設となりました。『広がる自閉症の概念・多様化するニーズと必要とされるサービス』を大会趣旨とし、初日が厚生労働省高原専門官による行政説明と岡部耕典氏の記念講演、二日目がシンポジウムと4つの分科会に分かれての発表でした。

私たち「風の谷」も第2分科会「自閉症者の地域生活に必要な支援とは」で、やまびこ工房を中心にした地域での実践を発表してきました。多くの支援者、ご家族に参加していただき無事に開催する事が出来ました。この間、やまびこ工房ご家族には大会準備、職員派遣とご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。この繋がりを大切にして、自閉症児者への支援力を高めて行きたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

**日帰りもすごい!** 事前のアンケートの結果、今年は日帰りの希望もあり、私たちのグループは、元相模湖ピクニックランドがあった場所にできている公園、プレジャーフォレストへ行ってきました。

手ぶらでキャンプやバーベキューができる所で今回はダッチオーブンに挑戦、ピビンバを作りました。最近の寒さに「戻りたい」と思われるほどの暑さは、9月に入っていました、タンクトップがピッタリの夏の陽差しでした。皆さんこの一日で、ずいぶん日焼けされたようです。

私も帰る頃には顔がヒリヒリ。ピビンバは最高の味で次々にお替りのお椀が差し出されていました。率先して後片付けをされる方、全員の味噌汁を作ってくれる方など外では皆さんの意外な積極さが目立ちました。

自然の中での食事は最高です。

(野田)



**灯台もと暗し** 旅行と言えば遠くに行くほど価値が高まりそう。でも近くに出かけてこんな近くにもいい場所があったんだと発見するのもまた旅行の楽しみです。行きなれている東京。行きなれているだけに不安がないようで、楽しむことに気持ちが傾けられるようです。神宮球場で野球観戦、応援しているチームが9回にホームラン

2本、いいゲームでした。なんども行っている東京タワーに今回は、はとバスツアーで行ってみました。なんと209系の鉄道模型を発見!いつもの東京タワーと

違って見えてしまいました。



# 今年も満喫! 一泊旅行!

**魔法の国の魔法の薬** Mさんは旅行の前々日「早く明日になれば、早く明日になれば!」と言いながら夜を明かし、さらに前日を旅行の日だと勘違いしてがっかりしてベソをかいていました。一方、一ヶ月も前からこの旅行を楽しみにしていたSさんは旅行の前々日に風邪をひいてやまびこ工房を早退してしまい、前日も家で寝ていました。そんな風に旅行前は心配なことが続きましたが、いざ当日となると二人の大きな期待が全てを吹き払い(?), 晴天のもと東京ディズニーランドを思う存分楽しみました。病み上がりのSさんもせっかちのMさんも笑顔が絶えず、特にパレードを見ている時は

二人とも魔法にかかったかのようにワクワクした表情になって迫力のダンスや大音響の歌に

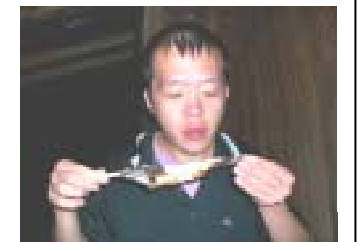
夢中になっていました。Sさんの風邪もどこへやら、どんな薬よりもディズニーランドの魔法が効いたようでした。

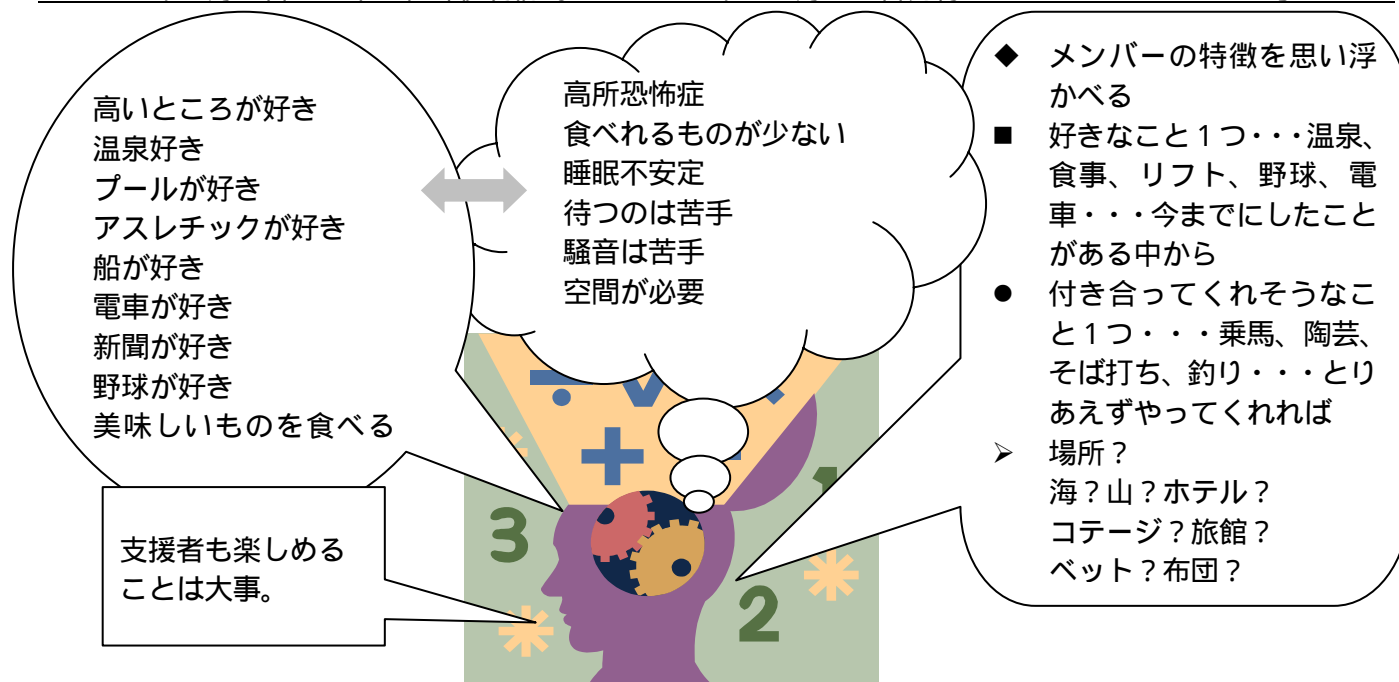
(鹿野)



**アンテナ立ってない!** 道志川の橋を渡り、山を登ったところのキャンプ場に行きました。受付には誰もいません。「今、不在にしています。××× に電話ください」と張り紙。携帯を出して市外局番は何番だっけとみるとアンテナが立ってない。電波届かないんだと愕然。どうやって連絡するんだろうと思うと電話の子機が置いてありました。注文の多い料理屋みたいな心境でした。平日で他の宿泊者は5歳くらいの男の子と父のみ。山のなかでのランタンに僕らの気持ちが集うのを感じました。

(薬師丸)





# 一泊旅行の創り方

～このページでは、前ページで紹介された旅行について、その創作現場を紹介していきたいと思います～

第一工程：グループ分けをする。

やまびこ工房の旅行は、まず少人数のグループを創ることから始まります。毎年7月から翌年1月まで毎週、木曜日を中心に設定していきます。グループを考えるに当たっては、メンバー同士の相性は無論のこと、旅の時期、趣味や歩く速さ、好きな宿のタイプ、希望される行き先や大まかな活動内容について検討を重ね、最後に付き添いの職員を内容やメンバーとの相性を考えながら振り分けていきます。

第二工程：場所の選定をする。

グループの検討は全体会議で行われますが、その後は一人ひとりの職員の腕にかかってきます。人によって、やり方は異なりますが、まず宿探しから入るのが私のパターンです。その時には、乗馬や牧場など動物もの、陶芸やピザ作りなど体験もの等、利用者に合わせた内容のイメージが大まかにあり、それを季節や移動距離と重ね合わせて地域を絞ります。ここで便利なのが「じゃらん」地域ごとに様々な条件を加えながら宿検索ができ、ネット予約も簡単です。

例えば、魚が苦手な利用者が多い中で逆に好きな人のグループで考える時、ワゴンでの移動と風邪がはやり始めている時期を考慮してあまり寒くない伊豆、または千葉。そして魚料理が楽しめる所で料金はあまり高くない所で調べてみると漁師がやっている民宿は料理のわがままも聞いてくれそうだし、オフシーズンで他の客も少ない。西伊豆の民宿、獲れたて魚介の舟盛り、温泉つきという、それほど高くない宿が見つかるという具合で、いくつか候補を並べておきます。

第三工程：宿予約、内容の決定をする。

宿の候補が挙がったら最終決定のため、それぞれの周辺でできるレジャーを調査します。その中で対象の利用者が楽しめそうなもの、できれば家族の旅行でも滅多にできないようなものを探します

例えば、乗り物が好きで刺身が大好きという方の場合、漁船で釣りができて、食事にも釣りがたての魚が出ることを売りにしている宿を予約します。その際には、宿が行っている場合は問題ありませんが、遊びに行く場所への移動手段や距離を考慮します。

第四工程：スケジュール、予算の了承を得る。

内容が決定したら実際にかかる時間を明記し、費用についても確認が取れるように書面にしてお伝えします。スケジュールの提示の仕方も人それぞれですが文字の表記にイラストや写真を合わせたものが多いです。予算等の了承に関しては代理として家族の方をお願いする場面が多くなっています。(野田)

# 自閉症について ～スエーデン刺繍～

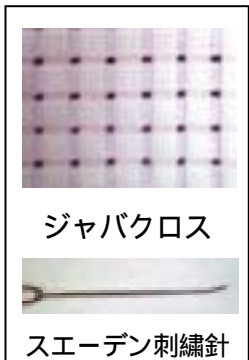
自閉症の方々に作業をしてもらう際、色々な方法で手順を伝えますが、今回はスエーデン刺繍を行ってもらうために、やまびこ工房でどのように手順を伝えているかを紹介しします。

まずやまびこ工房で行っているスエーデン刺繍は、『ジャバクロス』という刺繍用の布を使っています。針はスエーデン刺繍針、刺繍糸は5番糸を使っています。実際に刺繍をする時は、布の目を針で一目一目すくっていきます。

刺繍を始める際、利用者それぞれの評価を行います。針を安全に使用できるか。布を突き抜けないように、また糸がつっぱらないような力加減ができるか。印に注目することが出来るか。の3点を評価します。そのためにまず、直線のデザインを行ってもらいます。布の目をすくうという経験のある方は少ないのでそこは職員が手をとって一緒に行うことで練習していきます。糸をひっぱって抜けてしまう方は糸を玉止めしますし、印に注目しない方には印の色を変えたり、印をつけずに直線のみを行ってもらったりします。そのように各利用者の評価に合せて職員が工夫をしながら刺繍を行っています。

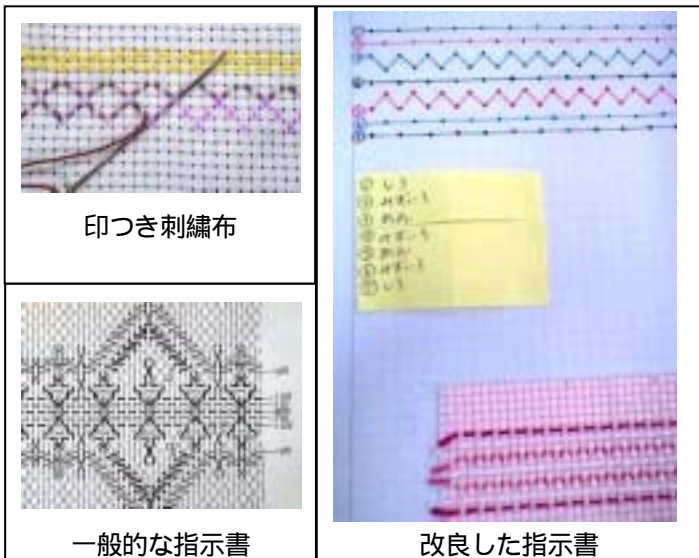
取る目の印つけには、『チャコパー』という水性ペンタイプのチャコペンを使っています。色付きがよく、ぬらさなければ印は消えにくいので、どの目をとればいいのかわかりやすいのです。このチャコパーをつかって、ジグザグ等のデザインを行うことも出来ます。布に印をジグザグにつけておき、次々にその目をとっていくのです。やまびこ工房ではこのやり方の方が多いです。一点一点に集中して見る（シングルフォーカス）自閉症の方にはわかりやすい方法と思われる。

ただチャコパーでの印は時間がたつと見えにくくなったり、デザインによってはわかりにくくなったりしてしまいます。そのため、デザインの指示書を見ながら刺繍を行う方法もあります。一般の方がスエーデン刺繍を行う際に使う指示書を使う方法と、見やすく数字をつけたり見本をつけておいたりする指示書があります。最近、指示書での刺繍に切り替えた方は、印の時に比べ、イライラする事がとても減りました。そして刺繍を嫌がる事がなくなったのです。印は消えたり、職員が間違えてしまったりすることもあります。指示書はいつでも同じですし、次がみえるので安心して取り組めるようです。安心し、集中して作業に取り組めるような工夫をこれからも行っていかなくてはと思います。（粕谷）



ジャバクロス

スエーデン刺繍針



印つき刺繍布

一般的な指示書

改良した指示書

## ☆ホームページリニューアルのお知らせ☆

10月1日にやまびこ工房のホームページをリニューアルしました。今までは、やまびこ工房のホームページという位置づけでしたが、リニューアル後は「社会福祉法人風の谷のホームページ」として、構成されています。全体的なレイアウトの変更だけでなく、相模原自閉症支援センターのページの追加や詳しい事業内容も追加してあります。またやまびこ工房のページには自主製作品の紹介ページもありますので、ぜひご覧ください。

ホームページアドレスは 『 <http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/index.htm> 』 となっています。

風の谷 View もカラーで載せてありますので、ぜひご覧ください。

# 後援会のページ

## 相模原自閉症児・者作品展開催される

相模原やまびこ会主催の「自閉症児・者作品展」が、10月24日～26日の3日間にわたり、おださがプラザにて開催されました。

この作品展開催の事前準備として、多くの母親が忙しい中、時間を捻出し、事前打ち合わせ、作品の募集、作品の見栄えを良くする装丁作業等々を実施してくれました。

展示された作品には、絵画を中心に習字、刺繍、紙粘土、陶器等種類も豊富でした。伸びやかな線で描かれた絵、緻密な描画・手工芸品、奔放な色使いの作品も多く、見る人も熱心に鑑賞していました。この作品展開催中に300人を超える方々が足を運んでくれました。中には子ども達が在学中に担当となられた先生もおられ、かつての教え子の作品に感動を受け、成長を実感されたのではないのでしょうか。作品展を通じて一般市民の方々が子ども達の作品の中に自由・奔放・純真・集中の素晴らしさを見出し感銘を受けるとともに、自閉症の説明パネルを読むことで少しでも自閉症に関する理解を深めることになれば、作品展開催の意義はあったこととなります。

会場の一角には「やまびこ工房コーナー」も設けられ、工房紹介パネルを展示し、活動内容を紹介しました。

今回の作品展開催に際しては、やまびこ会、やまびこ工房家族会、工房職員の皆様の多大なご協力を得ました。ありがとうございます。今後とも、よろしくご支援願います。

風の谷後援会会長 鈴木 秀美

【更新・個人】平成20年6月19日～平成20年9月9日（敬称略）

### （相模原市内）

豊田幸男、荻原常寿、森合貞雄、鹿野徹子、高橋ツキ、西田明美、清水紳一郎、小松真弓、川勝登美子、百田紀久男、高林清、古橋銀之助、高田晋、黒田アキ、柏木忠雄

### （その他地域）

新井靖数、佐藤辰男（厚木市）、江崎康子（藤沢市）、岩崎秀二（小平市）、村上信治、村岡嘉紀（大和市）、才田孝徳（松戸市）、日野朝子、日野資純、和田真理子（静岡市）、塚本寿子（福井県）、石渡和実（横浜市）、合津紀子（上田市）、下田武（藤枝市）、守屋恵美子（堺市）、宮手敏雄、源新和子（盛岡市）

【更新・団体】

ワカーズコープキュービック（横浜市）

ありがとうございました。

## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

### お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345